

# ちよつといし話

## ～ 霊 場 ～

日本の至る所に霊場があります。しかしながら、昔も今も変わる事なく、その役割を果たしている霊場が少なくなってきました。と言いますのも霊場を開かれた開山上人の真髓が今に受け継がれ、その任務を全うされている住職がだんだん少なくなっているからです。國の国宝、重文の指定を受けた多くの寺院は観光化され、大切な参拝の要素は失われ、見学料を徴収して仏閣や仏像の説明をするのみ、まだ説明して下さる方は良いほうで、勝手にどうぞの寺院が餘ほど多いのです。ですから、折角参拝に行っても礼を尽くした参拝が出来ないので。しかしながら、そんな中、信仰的に今も息づく霊場もあります。各霊場にはそれぞれ特別な風情があり、現在も堂等の環境が整備され、信仰の実践道場としての役割をきちっと守ってみえます。こう云う霊場に出くわした時の喜びはひとしお一入で、天にも昇る気持ちです。自然に誦経にも熱がすがすが籠り佛と合体するべく、入我我入の心境、実に清々しいものがあります。何事もその目的を間違いなく遂行出来てこそ真の満足が得られると思います。霊場で言えば開山上人の開山に至る道程を大切にし、その機根を伝承する事が肝要であるかと思えます。経は、入我我入の次に、佛加持故、我証菩提、以佛神力、利益衆生、と続きます。是を大まかに解釈すると、諸人よ、一心不乱なれば佛の加持力によって、利益が頂けますよ。との金言です。但し、天地の恵みを感謝出来ない人は利益を受ける資格がありません。その行動は昔より「天知る、地知る、我知る、子知る。」と言われます。 祖師の如く、檀信徒の皆様と共に仏道を成ぜん事を祈念致します。

善入院油掛地藏尊